

会員だより

春近心

1月初め
庭にメジロ
がやって
きました。

毎日リンゴ、バナナ、ミカンなど台所のお裾分けの言い訳であれこれとメニューを変えています。この写真は庭の冬までなっていたミニトマトを出してみたら、よほど甘かったか小さな嘴で突いて食べています。



余り可愛いので、食卓の下にもぐつて息を詰めて20分やつとこの写真が撮れました。雀とのバトルはありますが、鴨の気配にすぐ逃げます。シジュウカラや鴨は脂身や果物何であれ、あつという間に無くなりします。脂身にはメジロも雀も鴨もシジュウカラも好物のようになり、食生活が変われば肥満になるのではと心配してい

ます。鴨やカラス以上に怖いのは野良猫君です。ある日私たちの目前でメジロがいなくなりしました。大声で追いかけてましたが、遅かりし……。

記・写真：上村サト子

ココファン阿倍野

を訪問して

牧戸さんが数件施設を見学されて、ココファンを選ばれたと聞きました。が実際に見学させてもらい納得でした。繁華街でどこにも行けること。

施設は明るく多彩なイベントがあること、共同スペースも



各階の中央にある
広い飲談コーナー

多いこと、高齢者に対する医療ケアも安心で素晴らしい！私も老後こんな所で過ごせたら幸せと思いました。

記・中川加奈子

牧戸さんのお元気を姿を拝見し、ココファインの施設を見て頂き、富田の本屋さんの3階から天王寺の、大きなビルの立ち並ぶ場所へと引越され、生き生きとしておられる姿に感動しました。



毎月開催されてる
リレーション行事

まだまだ元気な牧戸さん。昼食は自炊していると聞かれた事。

映画館が近くにあり早速見に行かれたことも、耳にしたような。第二の人生大いに満喫しておられ素晴らしい。あやかりたい。

記・平田英子

V G 槻輪は今まで高槻市内を中心に多くの同様の施設を訪問してきました。

会員の牧戸さんからは、高槻富田の駅前の便利なマンションから新しいお住まいとして選ばれた「ココファン阿倍野」の経緯なども、V G 槻輪のホームページに

に報告して頂いています。

高齢者の終活の問題は、兄弟や子供がいても必ず直面する問題と思っています。

終活とは八年ほど前に、週刊朝日が造った言葉で、当初は葬儀や墓など人生の終焉に向けての事前準備のことでした。

現在では 大生のエンディング



より良く「自分らしく生きていく」ため！
大切な家族のために、そして自分のために！
社会に「ありがとう」を伝える活動を！

グを考えることを通じて、「自分」を見つめ、「今」をよりよく、自分らしく生きる活動」のことを言うそうです。

今回は、先輩の牧戸さんのお住まいを訪問し、施設の見学と本人及びその施設の責任者と率直な意見交換もさせて頂きました。有難う御座いました。

記・大岡成一

チンプン

入試問題

受験シーズンのこの頃、新聞に入試問題がよく載っています。どんな問題が出るのかなと思って覗いてみましたが、通信制高校卒業の私にはさっぱり理解出来ません。特に英語、数学、理科などはチンプンカンピン。いろいろして国語は問うている意味は理解できるのですが、答えは、大抵、間違っています。若い頃は国語が得意科

目だったのですが、それは私の頃は漢字の読みと書き取りが主だったからです。最近では作者のそれを書いた気持ちとか、似たような文章の中から正しいものを選びなさいとかで、解釈がとても難しいのです。

昔、ボランティアで「新聞の朗読」をしていたとき、盲人の方から、「大学入試の数学の問題を読んでください」という依頼がありました。ラテン文字やら、記号の読み方やら、図形の説明に四苦八苦した覚えがあります。その方もきつと昔のことを思い出して、知りたくなられたのでしよう。古文ならいつも百点だったのに、この頃古文はあまり見当たらないし、改めて現代についていけない自分を嘆いています。

記・牧戸富美子

四季彩

デイジー

花名のデイジー (Daisy) は、英語の「day's eye (デイズ・アイ)」の発音がなまったものと言われます。day's eye (日の目) は、デイジーが朝に花を開き、夜になると花を閉じるという性質に由来します。原産地はヨーロッパ。もともとは一重咲きの目立たぬ野生種を改良されて、八重の多色園芸品種になりました。日本には明治初期に渡来し、小さくてかわいらしい菊と形容され、雛菊 (ヒナギク) と名付け、また、花期が長いことから、延命菊とも呼ばれました。本来は耐寒性があり、時には芝生の中に野生のように育っています。

記・写真：上村サト子

